



第3期 鹿屋市スポーツ推進計画 Kanoya's 3rd Plan for Sports Promotion



目次

第1章 第3期鹿屋市スポーツ推進計画の策定にあたって

1	計画の目的	02
2	計画の位置づけ	03
3	計画の期間	04
4	計画におけるスポーツの考え方	05
5	計画におけるSDGsの考え方	06

第2章 本市のスポーツの現状

1	「する」スポーツについて	08
2	「みる」スポーツについて	16
3	「ささえる」スポーツについて	19
4	「つながる」スポーツについて	27

第3章 本市のスポーツの課題

1	「する」スポーツについて	31
2	「みる」スポーツについて	32
3	「ささえる」スポーツについて	33
4	「つながる」スポーツについて	34

第4章 計画の基本的な考え方

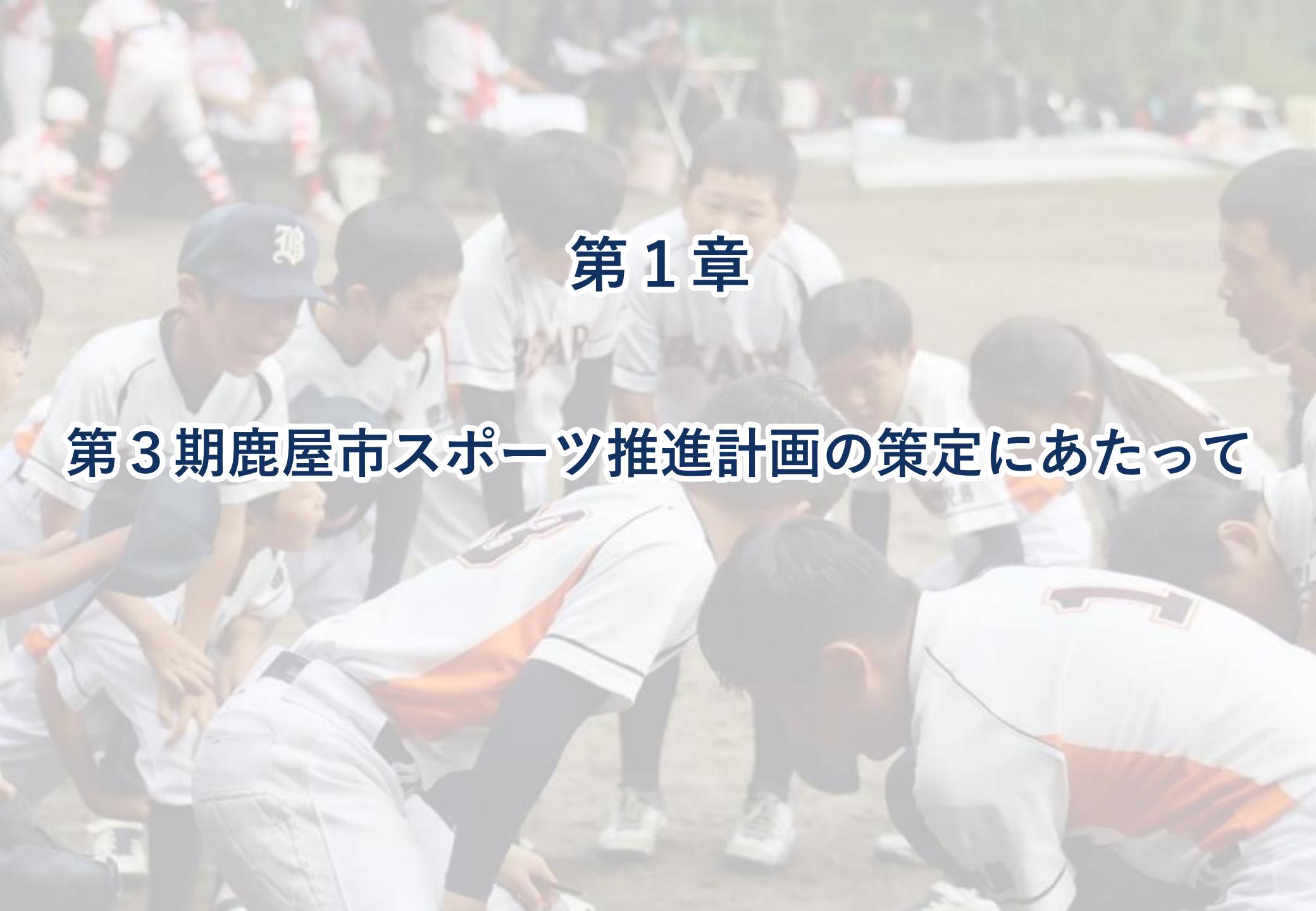
1	計画の基本理念・将来像	36
2	計画の基本目標	37
3	計画の基本的方針	38
4	数値目標	39
5	連携・協働について	40
6	計画の体系図	41
7	計画の変遷	42

第5章 具体的な取組

1	スポーツを「する」	44
2	スポーツを「みる」	50
3	スポーツを「ささえる」	52
4	スポーツで「つながる」	55

「第3期鹿屋市スポーツ推進計画」の改定にあたって

市長あいさつ文を掲載

A group of young baseball players in white uniforms with orange and black accents are gathered in a huddle on a dirt field. They are looking down and to the right. The background is slightly blurred.

第1章

第3期鹿屋市スポーツ推進計画の策定にあたって

計画の目的 1

国のスポーツ基本法には、「スポーツは世界共通の人類の文化」、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」と明記されており、全ての国民にスポーツを推進していくことを謳っています。

そして、スポーツ基本法に基づき、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画が、「スポーツ基本計画」です。

現行の「第3期スポーツ基本計画」は令和4年度から5年間（令和8年度まで）運用される計画として策定されました。

本市においても、スポーツ基本法に基づき、令和3年3月に「第2期鹿屋市スポーツ推進計画（以下、「第2期計画」という）」を策定し、市民が様々な形でスポーツに積極的に参画することで、基本理念である『スポーツを通じた活力ある社会の実現』に向けてスポーツの推進に取り組んでいます。

さらに、令和7年1月には、国立大学法人鹿屋体育大学と共同で「目指せ！鹿屋スポーツ実施率日本一」を宣言し、市民のスポーツ実施率が向上するよう事業の多様化に取り組んでいます。

また、令和7年3月には、市政の総合的な指針となる最上位の計画である「第3次鹿屋市総合計画（第3期鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略）」を策定し、「ひとが元気！まちが元気！『みんなで創る健康都市かのや』」をまちづくりの将来像として市政を運営しています。

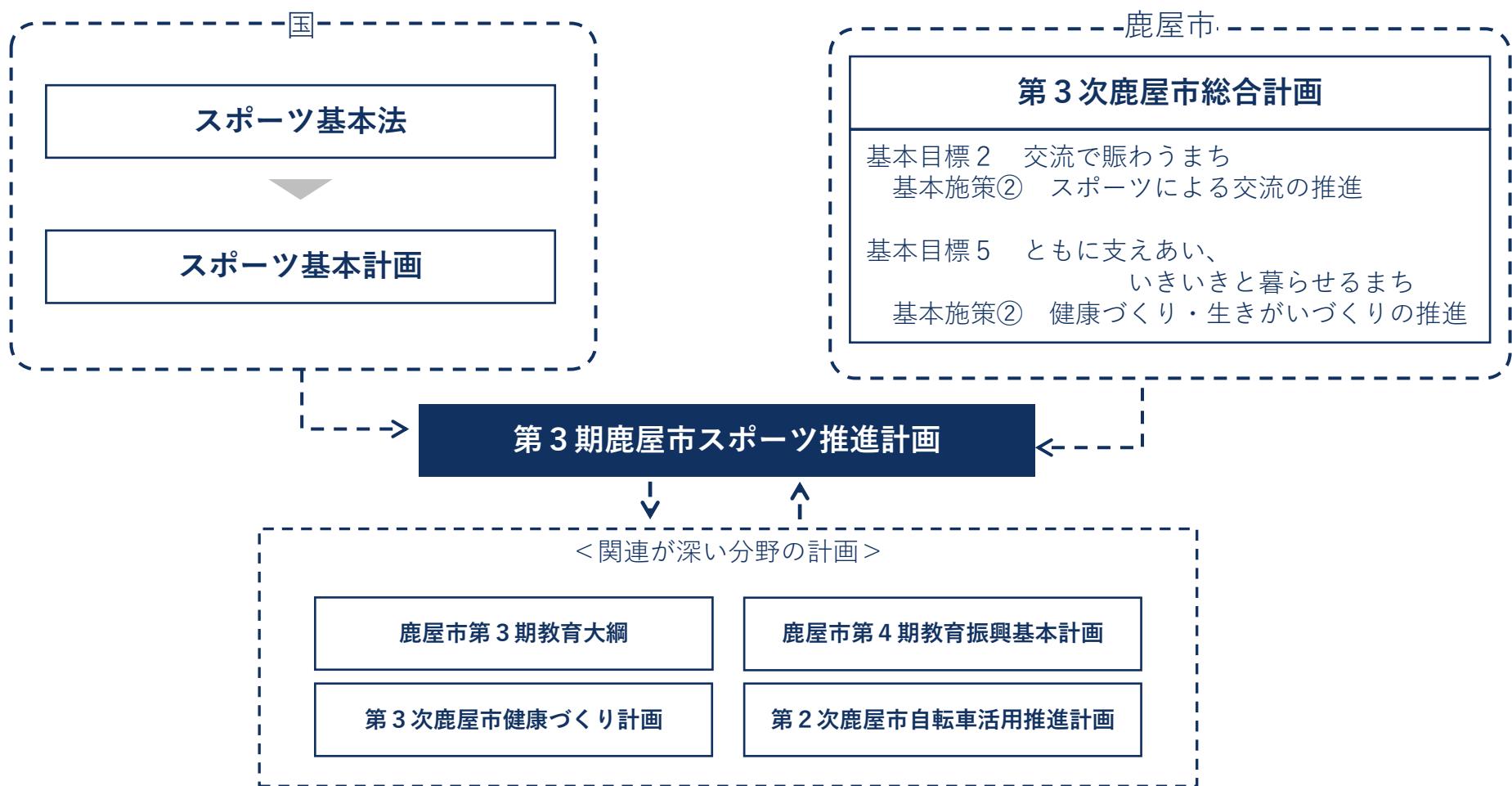
このような中、「第2期計画」の計画期間が令和8年3月に満了を迎えることから、国の「第3期スポーツ基本計画」を参照し、本市の現状と課題を踏まえ、今後5年間のスポーツ振興を計画的に推進するため「第3期鹿屋市スポーツ推進計画（以下、「本計画」という）」を策定することになりました。

本計画は、市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツに親しみ、豊かな心と健やかな体を育み、スポーツによる交流の活性化を通して、「スポーツを通じたウェルビーイングの実現」を目指して策定するものです。

2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法に基づき、国の「第3期スポーツ基本計画」を参照し、本市の特色や実情に照らし合わせて、第2期計画を引き継ぎ、策定するものです。

また、本計画は、第3次鹿屋市総合計画を上位計画とし、本市のその他関係する個別計画等との連携・整合性に留意して策定するものです。



計画の期間 3

本計画の期間は、令和8年度から令和12年度（令和13年3月）までの5年間とします。なお、国の示す方針や社会やスポーツ界の状況に対応するため、必要に応じて、見直しを行います。

国

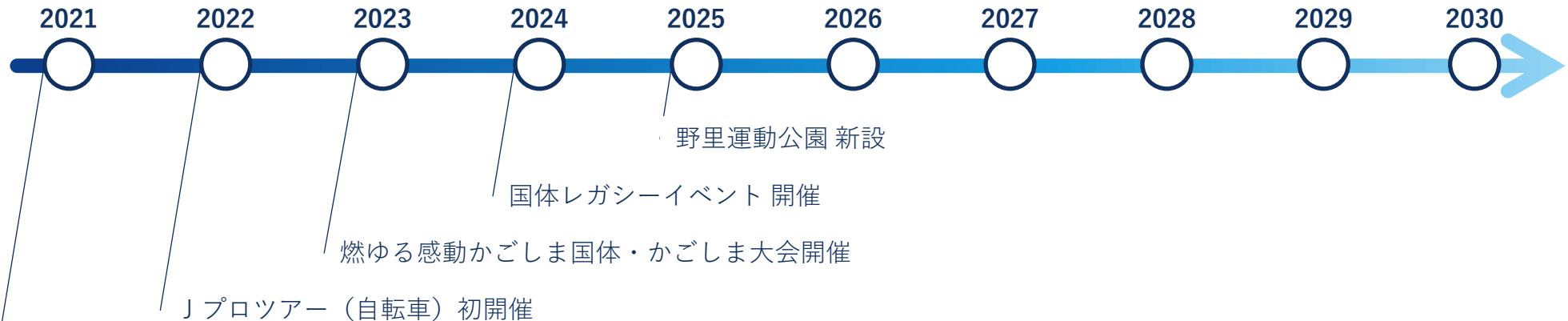
第3期スポーツ基本計画
令和4(2022)年度から令和8(2026)年度

第4期スポーツ基本計画

鹿屋市

第2期計画
令和3(2021)年度から令和7(2025)年度

第3期計画
令和8(2026)年度から令和12(2030)年度



4 計画におけるスポーツの考え方

本計画におけるスポーツは、競技スポーツだけでなく、健康などのために行われる運動や多様な目的で行われるレクリエーション活動など、個人の楽しみ・趣味、健康づくり、体力づくり等を目的として自発的になされる身体活動を含みます。

本計画における「スポーツ」

多様な目的で行う身体活動



ウォーキング



オフィスでのストレッチ



階段昇降

競技スポーツ

<具体的な事例>



陸上競技



水泳



サッカー



バレーボール



ゴルフ

野球
ソフトボール

自転車競技



テニス



登山



ダンス



ペットの散歩



徒歩通勤



清掃活動



農作業



釣り



キャンプ

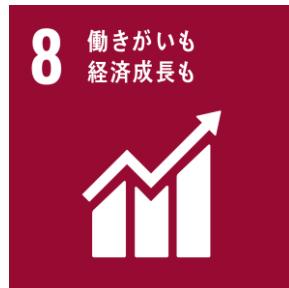


マリンレジャー

計画におけるSDGsの考え方 5

SDGsとは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、平成27年（2015年）9月の国連サミットにおいて採択された国際社会全体の共通目標です。

本計画においては、SDGsの目指す17の目標のうち下記の8つの目標が関連することから、SDGsの視点を取り入れた計画とします。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

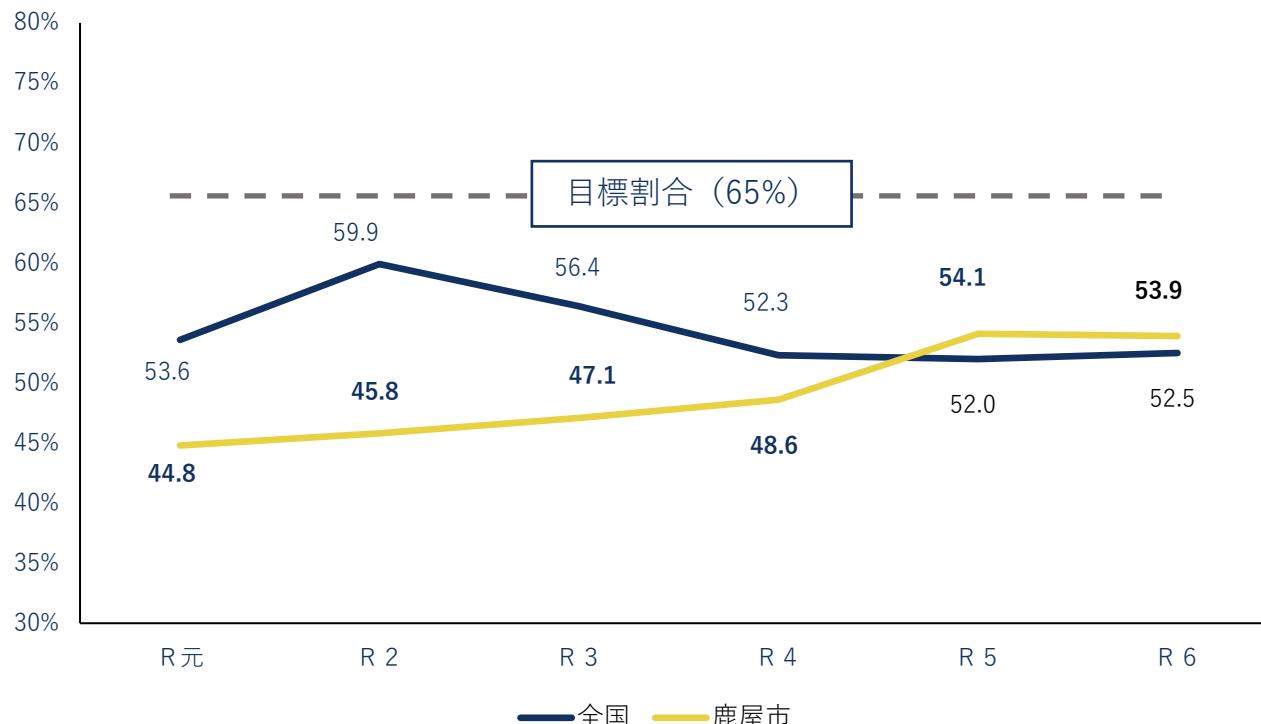
第2章

本市のスポーツの現状

「する」スポーツについて 1

(1) 本市のスポーツ実施率について

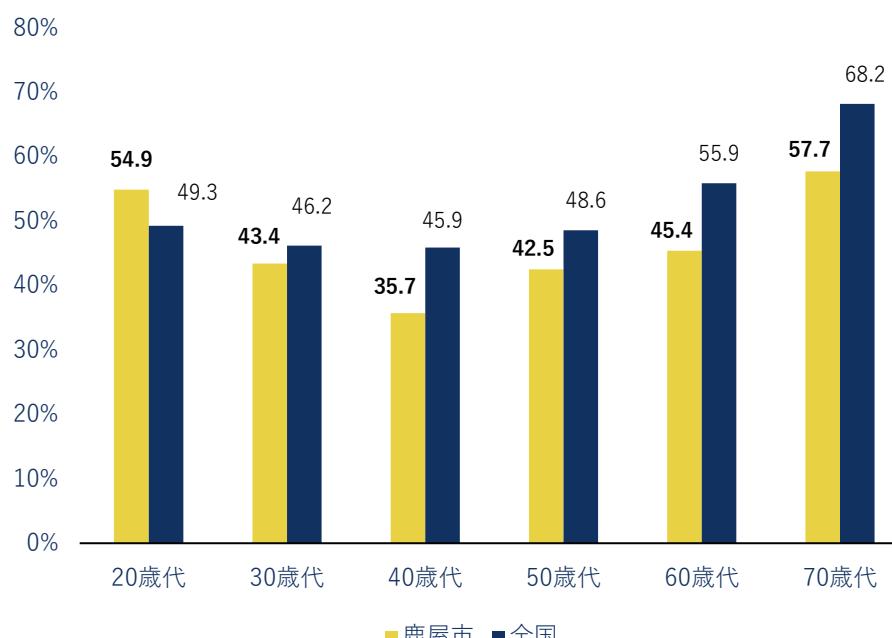
令和6年度、鹿屋市民の「週1回以上スポーツを実施した人」の割合は、53.9%であり、全国平均（52.5%）を1.4ポイント上回る現状となっています。しかし、令和5年度と比較すると、0.2ポイント減少しています。



1 「する」スポーツについて

(2) 世代別のスポーツ実施率について

30歳代～60歳代の働き世代・子育て世代が全国同様に低い傾向にあります。



スポーツの実施にあたり妨げになっていること (アンケート結果の多い順)

- ① 時間的制約
(勤務時間が長い、家事が忙しい)
- ② 経済的制約
(施設の利用や用具購入にお金がかかる)
- ③ 設備の制約
(身近に施設がない)
- ④ 体力的制約
(年をとっている)
- ⑤ 人的制約
(仲間がいない)

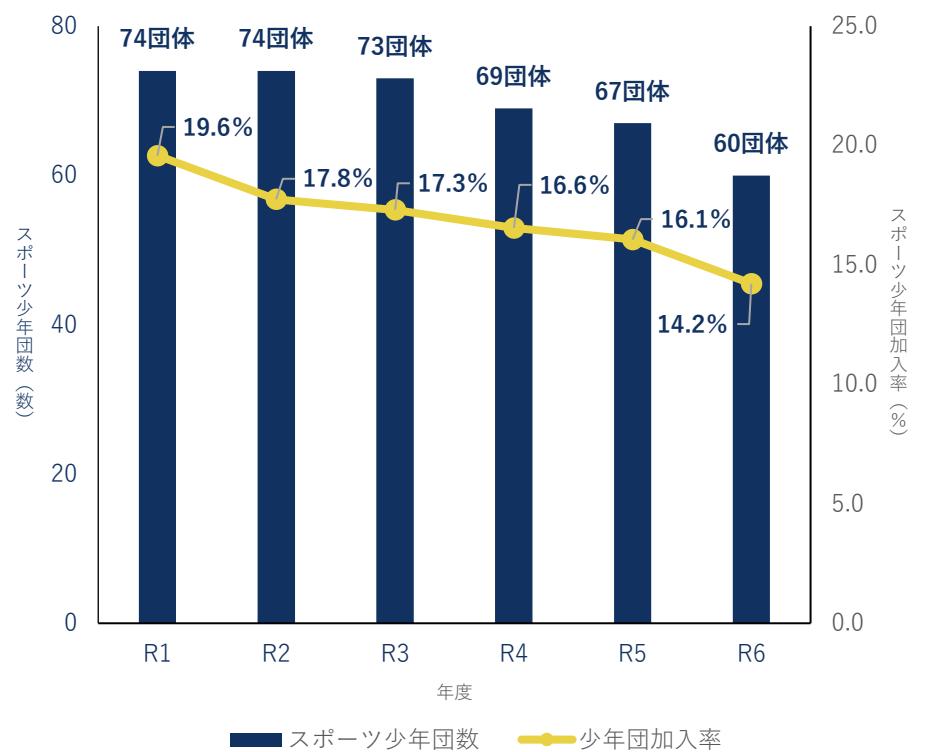
※「令和6年度鹿屋市民の運動・スポーツ活動に関する調査」結果より

「する」スポーツについて 1

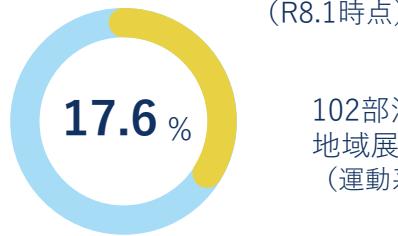
(3) 子どものスポーツ活動の推進について

本市では、「鹿屋市スポーツ少年団」の活動支援や「部活動地域展開」を推進することで、子どものスポーツ活動の推進に取り組んでいます。

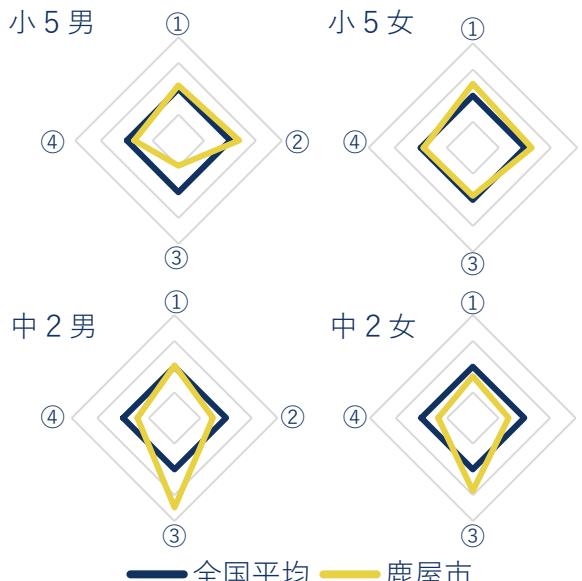
●鹿屋市におけるスポーツ少年団の推移



●部活動地域展開進捗状況



●「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果



	小5男		小5女	
	全国	市	全国	市
①	92.9	94.1	85.7	89.6
②	94.7	98.0	89.9	92.2
③	544.6	489.1	321.6	316.4
④	52.6	51.1	54.3	53.7

	中2男		中2女	
	全国	市	全国	市
①	89.4	89.8	76.5	73.6
②	89.7	85.2	82.7	77.7
③	665.2	763.1	657.9	712.6
④	41.3	39.0	47.2	44.1

- ①運動が「好き」な割合
②体育等授業が「楽しい」割合
③1週間の総運動時間
④体力テストの合計得点

1 「する」スポーツについて

(4) 競技スポーツの推進について

本市では、顕著な成績を納めた競技者に対して、スポーツ奨励金を交付し、鹿屋市スポーツ協会では、九州大会以上の大会出場者に対して、助成金の交付や競技団体運営の支援により、競技スポーツの推進に取り組んでいます。

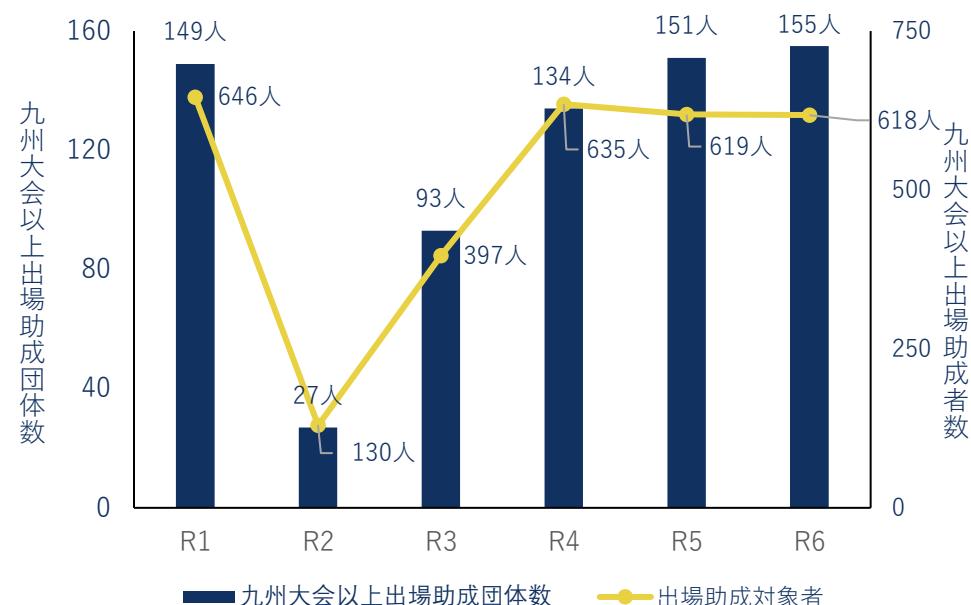
●スポーツ奨励金交付実績

鹿屋市内に住所を有する個人や団体に対して、全国大会で優勝や国際大会で入賞した個人・団体に奨励金を交付する事業



●鹿屋市スポーツ協会 九州大会以上出場助成金交付実績

日本スポーツ協会の加盟団体等が主催・共催する九州大会以上のスポーツ大会に出場する選手に助成金を交付する事業



●スポーツセミナーの開催

- ・(株)KAGO食スポーツによるスポーツ栄養学のセミナーを開催 (R3)
- ・鹿屋体育大学講師による競技力向上と指導者の資質向上を目的としたセミナーの開催 (R4)
- ・日本バレーボール協会会長を招聘したセミナーの開催 (R5)

(5) 鹿屋体育大学との連携について

本市と鹿屋体育大学は、2010年に包括的連携協定を締結しており、多様な分野で緊密に連携しながら、様々な事業に取り組んでいます。

●SPORTECスポーツパフォーマンス研究センター 活用による体力測定

将来、活躍が期待される本市の有望な中・高校生アスリートを対象に、当センターの最先端機器を活用した体力測定を行い、競技力向上を図る事業



【国立大学法人鹿屋体育大学と鹿屋市との包括的連携協定】

➢相互の人的・知的資源の交流・活用を図り、緊密な連携・協力関係を構築するための協定です。
本市と鹿屋体育大学が多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続・発展的に連携を深めることで、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的としています。

【SPORTECスポーツパフォーマンス研究センター】

➢世界で唯一の50メートルフォースプレート走路やモーションキャプチャなどの最新の研究設備が備えられた屋内研究施設です。

●スポーツを通じた生涯健康増進モデル事業

鹿屋体育大学の知見に基づき、年齢やライフスタイル、体力に応じた効果的な運動プログラムを作成、実施し、市民の健康増進、体力向上を図る事業

実施内容

- ・ミッションウォーキング
幼児から高齢者まで、多世代が参加できるウォーキングにイベント要素（クイズ等）を加えたウォーキングイベント（2町内会で実施）
- ・ながら運動コンテンツ開発・試行
SNSを活用した、スキマ時間を活用して実施できる運動プログラムの配信
(子育て世代（女性）を対象)

R5

- ・ミッションウォーキング
幼児から高齢者まで、多世代が参加できるウォーキングにイベント要素（クイズ等）を加えたウォーキングイベント（2町内会で実施）
- ・ながら運動コンテンツ開発・試行
SNSを活用した、スキマ時間を活用して実施できる運動プログラムの配信
(働き世代・子育て世代（女性）を対象)

R6

1 「する」スポーツについて

(6) ウォーキング事業について

本市では、気軽に取り組めるスポーツとして「ウォーキング」の普及を図るため、様々な事業を展開しています。

●スポーツタウンウォーカーアプリの普及実績

スマホアプリを活用して、スポーツのきっかけづくりや習慣化の動機付けを図る事業



●かのやウォーキングプロジェクト実行委員会の設立・運営

ウォーキングを通して市民のスポーツ実施率の向上を主目的とし、健康増進、市民間の交流活性化に寄与するようなウォーキング大会等を企画、準備、実施することを目的に、鹿屋体育大学や鹿屋市スポーツ推進委員協議会、鹿屋市歩こう会、かのや健康・スポーツクラブで構成された実行委員会を設立しました。



キャンパスウォーク in NIFS
(R7.3.16)



海上自衛隊鹿屋航空基地ランウェイウォーク
(R7.8.24)



吾平山上陵往還新春ウォーク
(R8.1.11)

「する」スポーツについて 1

(7) 障がい者スポーツについて

本市では、障がい者スポーツに対する理解を深めるため、パラスポーツ体験会や競技用車いすの貸出などの事業を実施し、障がいの有無に関わらず、スポーツに親しむ機会を提供しています。

●出張パラスポーツ体験会実績

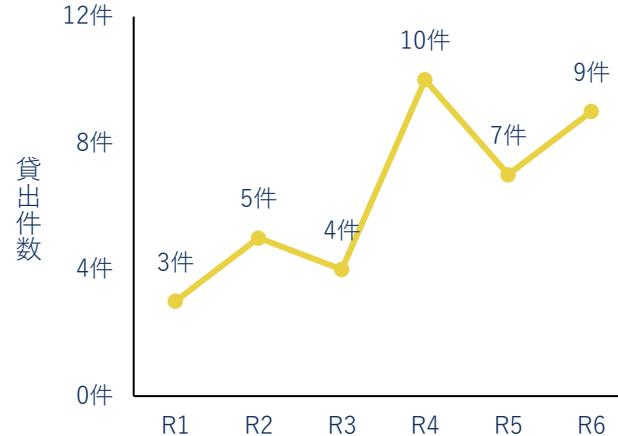
生涯学習まちづくり出前講座の一環で、ボッチャや競技用車いす体験などを開催し、障がい者スポーツの理解促進を図る事業



出張パラスポーツ体験会

●競技用車いすの貸出実績

パラスポーツの普及・促進を図ることを目的に、競技用車いすの無料貸出しを行う事業



●かのやパラスポーツフェスタの開催

障がいの有無に関わらず誰もがスポーツに触れる機会づくりとパラスポーツへの理解促進を目的としたイベント

※R4から、「かのやスポーツフェスタ」に統合



1 「する」スポーツについて

(8) 本市のスポーツイベントの参加状況について

本市では、市民にスポーツを楽しんでもらったり、日ごろの練習の成果を発揮できる場として、様々なスポーツイベントを開催しています。

●スポーツイベント参加人数

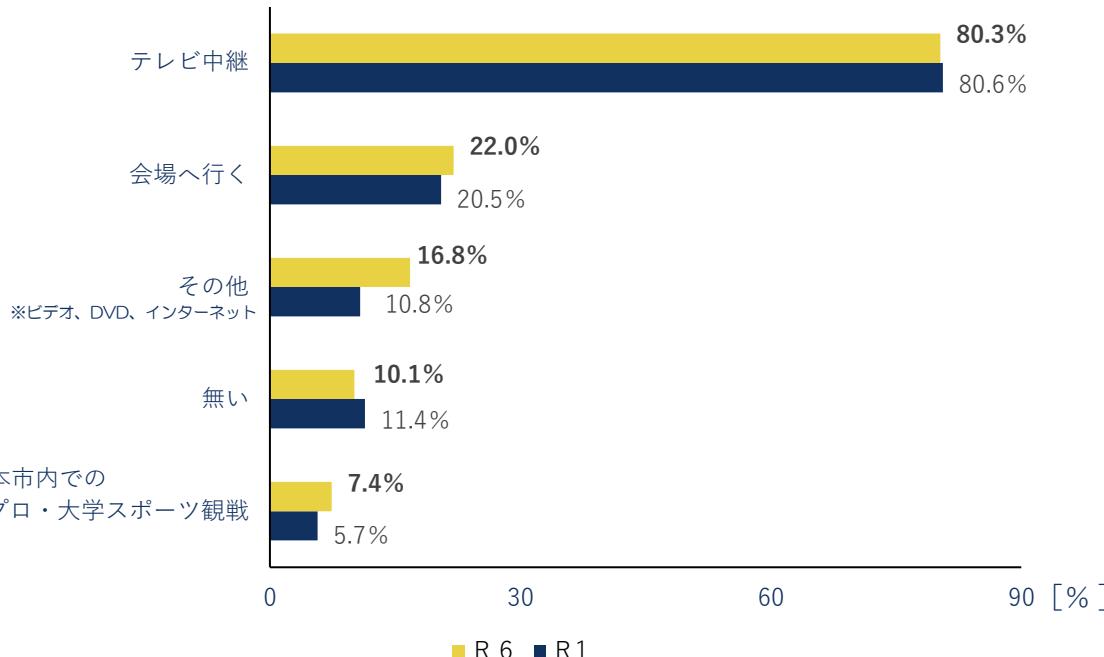
名称	イベント概要	R1	R2	R3	R4	R5	R6
南日本新聞社杯グラウンド・ゴルフ鹿屋大会	県内のグラウンド・ゴルフ愛好者による大会	1,020人	640人	860人	740人	858人	770人
南日本新聞社杯中学生かのやサッカーフェス	県内外の中学生によるサッカー大会	589人	461人	478人	470人	休止	510人
かのやマリンフェスタ	様々なマリンスポーツが体験できるイベント	中止	中止	800人	821人	900人	1,000人
かのやローズヒル駅伝大会	小学校区毎に編成されたチームで競う駅伝大会	340人	175人	230人	281人	休止	720人
くしら桜まつりジョギング大会	ファミリー、2.5~10kmのランニングイベント	1,056人	中止	中止	中止	540人	536人
マウンテンバイクカーズフェス	霧島ヶ丘公園のマウンテンバイクパークを活用した耐久レース	52人	66人	中止	31人	59人	65人
ツール・ド・おおすみ	大隅半島をコースとしたサイクリング大会	545人	659人	548人	549人	580人	532人
スポーツフェスタinかのや	鹿屋体育大学と連携し、様々なスポーツが体験できるイベント	1,500人	303人	360人	465人	休止	1,896人
かのやパラスポーツフェスタ	様々なパラスポーツが体験できるイベント	800人	175人	416人	—	—	—

令和3年度まで実施していた「パラスポーツフェスタ」は、「スポーツフェスタinかのや」に統合

「みる」スポーツについて 2

(1) スポーツ観戦状況について

本市では、鹿屋体育大学や各競技団体が主催する各種スポーツ大会が開催されていることや、本市のホームタウンスポーツチームなど多くのアスリートが活躍し、市内でもスポーツ大会を直接観戦できる機会があります。



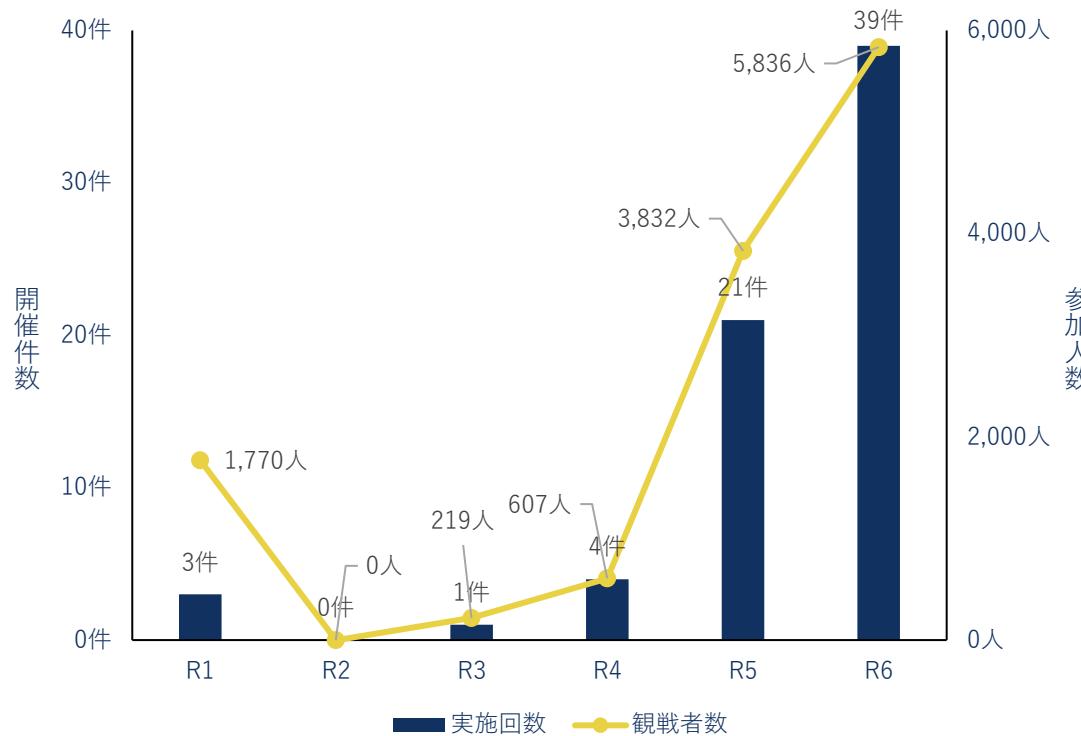
1年間でスポーツを観戦した割合
(「令和6年度鹿屋市民の運動・スポーツ活動に関する調査」より)

2 「みる」スポーツについて

(2) カレッジスポーツディについて

本市と鹿屋体育大学の連携の一つに、大学スポーツの振興により、地域活性化を進める「Blue Winds」事業があり、その一環で、大学スポーツを「みる」機会を提供しています。

●カレッジスポーツディ開催実績



カレッジスポーツディでの観戦風景

「みる」スポーツについて 2

(3) 大規模大会誘致の実績について

本市では、市民にスポーツを「みる」機会を提供するため、各競技の大規模な大会を誘致しています。

大会名	大会概要	誘致期間	観戦者数
JBCFロードシリーズ鹿児島大会	国内最高峰の自転車競技（ロードレース）大会	2023年～	約2,000人
薩摩おいどんリーグ	大学・社会人・プロを交えた野球の交流戦	2024年～	約2,500人
全日本女子ソフトボールリーグ鹿児島大会	女子プロソフトボール大会	2021年～ 2023年	約900人
鹿児島レブナイス公式戦	男子プロバスケットボールの公式戦	2021年～ 2023年	約1,000人
フラーゴラッド鹿児島 鹿屋大会	男子プロバレーの公式戦	2026年	約1,500人



JBCFロードシリーズ鹿児島大会



薩摩おいどんリーグ



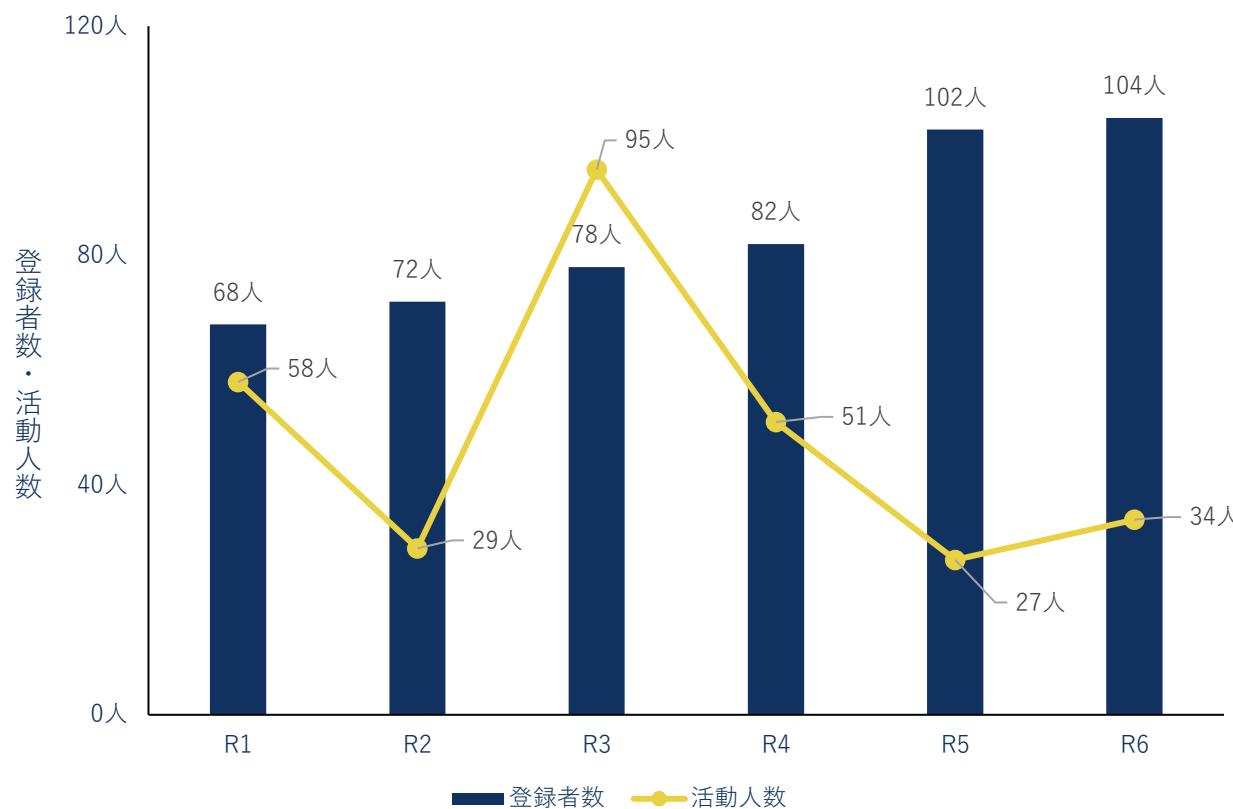
全日本女子ソフトボール鹿児島大会

3 「ささえる」スポーツについて

(1) 鹿屋市スポーツボランティアについて

本市では、市や競技団体が主催するスポーツイベント等の運営をサポートするスポーツボランティア制度を運用しています。

●鹿屋市スポーツボランティア登録者数/活動人数実績



かのやマリンフェスタでの受付業務



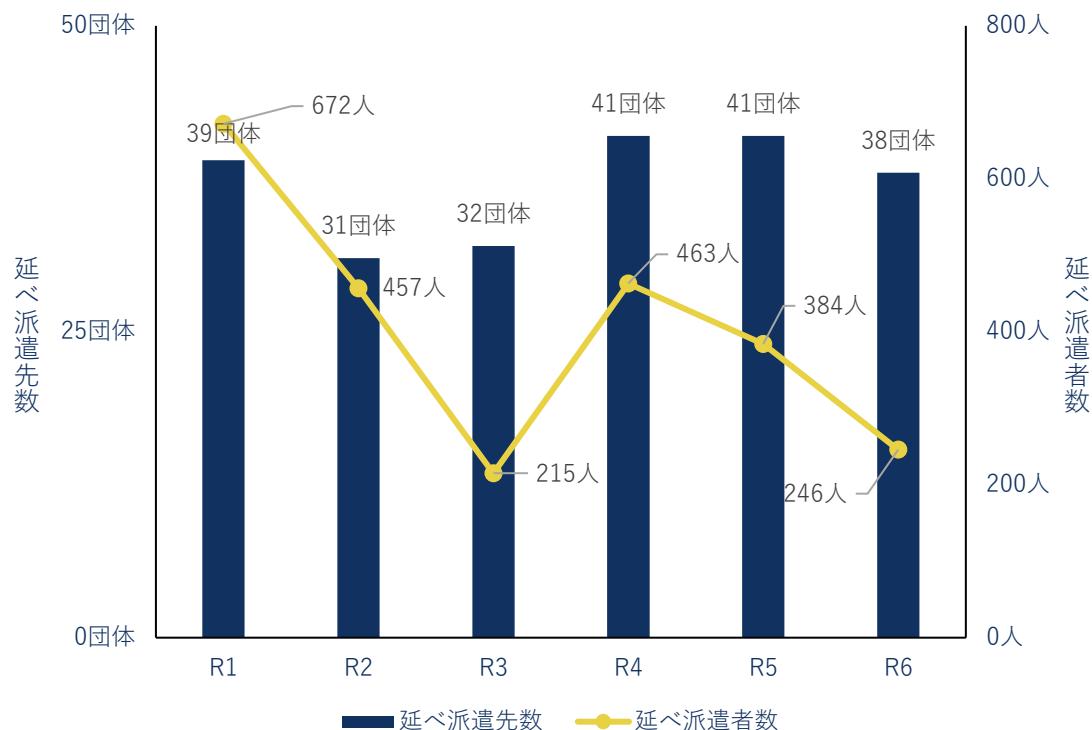
マウンテンバイクカーズフェスでの計測タグの確認

「ささえる」スポーツについて 3

(2) スポーツ指導ボランティアについて

鹿屋体育大学と連携して、市内の小・中・高校に鹿屋体育大学の大学生を派遣し、スポーツ指導を行うことで、地域のスポーツ環境の充実、活性化に取り組んでいます。

●スポーツ指導ボランティア 延べ派遣先数/延べ派遣者数



3 「ささえる」スポーツについて

(3) スポーツ情報誌発行について

市内のスポーツ情報をより多くの市民に発信するため、スポーツイベントや地元アスリート等を紹介する「Sports Channelかのや」を年に2回発行しています。



「ささえる」スポーツについて 3

(4) スポーツ施設等利用者数について

市民の誰もが「気軽に、快適で、安全に」スポーツに親しむことができるよう、スポーツ環境の整備に取り組んでいます。

●スポーツ施設利用者数（鹿屋地区）

施設名	R1	R2	R3	R4	R5	R6
鹿屋中央公園	体育館	49,371人	35,554人	21,093人	44,566人	54,831人
	プール	6,452人	4,211人	4,376人	3,351人	4,195人
	武道館	30,303人	27,794人	36,268人	25,040人	28,468人
	第2 武道館	8,719人	7,997人	7,200人	6,816人	6,868人
	弓道場	8,024人	6,997人	5,614人	6,281人	6,492人
	テニス場	33,418人	31,147人	21,010人	23,948人	24,464人
	サッカー場兼ソフトボール場	17,213人	11,127人	10,905人	13,207人	10,086人
鹿屋運動公園	相撲場	154人	0人	81人	144人	177人
	野球場	7,579人	4,332人	6,027人	5,184人	6,055人
	陸上競技場	31,446人	20,954人	17,988人	28,435人	31,234人
	屋内運動場	16,246人	9,490人	8,339人	9,627人	16,186人
かのやグラウンド・ゴルフ場	55,374人	20,754人	34,245人	39,677人	41,369人	39,844人
西原健康運動公園	19,049人	11,658人	9,671人	8,320人	7,394人	7,948人
いこいの森運動広場	9,715人	6,129人	6,921人	7,616人	7,471人	8,167人
高隈艇庫	1,077人	1,622人	1,558人	2,237人	1,863人	1,444人
高須艇庫	847人	250人	1,572人	1,262人	896人	968人
小計	294,987人	200,016人	192,868人	225,711人	248,049人	259,759人

3 「ささえる」スポーツについて

●スポーツ施設利用者数（輝北・串良・吾平地区、合計）

施設名	R1	R2	R3	R4	R5	R6
輝北地区	輝北運動場	9,383人	2,653人	2,759人	5,281人	2,988人
	輝北体育館	4,985人	3,687人	3,787人	5,226人	5,596人
	百引多目的グラウンド	556人	790人	3,071人	3,076人	3,043人
串良地区	串良平和アリーナ	67,033人	37,792人	55,045人	55,252人	58,392人
	テニス場	8,626人	9,906人	7,807人	8,901人	8,820人
	多目的グラウンド	16,361人	10,278人	11,516人	14,309人	21,571人
	屋内ゲートボール場	6,559人	3,603人	2,558人	3,750人	6,548人
	野球場	11,131人	6,227人	9,532人	8,401人	17,343人
	屋内練習場	12,274人	13,285人	13,050人	16,006人	16,083人
	投球練習場	1,372人	1,438人	1,419人	1,596人	1,979人
	B&G海洋センター体育館	24,289人	23,595人	21,303人	25,889人	29,357人
	B&G海洋センタープール	1,766人	716人	865人	987人	1,538人
	大塚山公園研修棟・キャンプ場	895人	615人	4人	18人	40人
吾平地区	吾平運動場	8,577人	6,889人	6,022人	6,901人	6,369人
	吾平多目的グラウンド	24,266人	14,140人	15,072人	17,630人	9,683人
	吾平屋内ゲートボール場	3,815人	1,829人	1,887人	1,781人	3,140人
	吾平弓道場	102人	46人	18人	10人	—
	吾平艇庫	732人	805人	789人	1,165人	526人
	吾平相撲場	290人	0人	0人	0人	0人
小計		203,012人	138,294人	156,504人	176,179人	193,016人
合計		497,999人	338,310人	349,372人	401,890人	441,065人
						432,777人

「ささえる」スポーツについて 3

●学校開放事業の利用人数

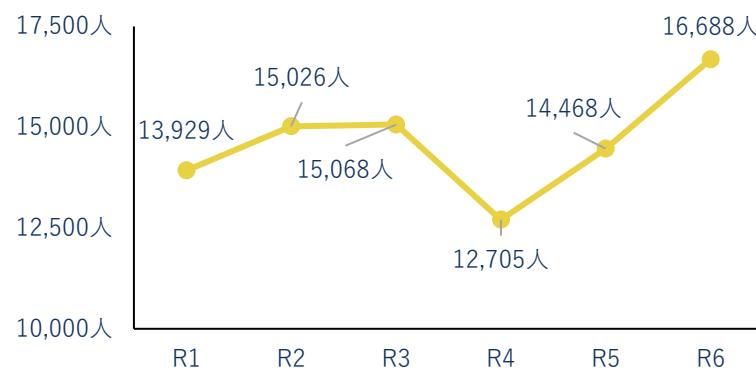
鹿屋地区



輝北地区



串良地区



吾平地区



【学校開放事業】

►学校教育に支障のない範囲で、体育施設を地域住民の利用に提供し、市民の日常生活におけるスポーツ活動の推進を図る事業。

3 「ささえる」スポーツについて

(5) スポーツ施設整備について

スポーツ施設整備については、計画的な整備や定期的な保守管理を行い、長寿命化に努めています。

年度	施設名	整備内容
R2	平和公園陸上競技場	多目的化改修工事
	鹿屋運動公園野球場	バックネット改修工事
	鹿屋運動公園陸上競技場	トラック改修工事
R3	鹿屋運動公園陸上競技場	外周部改修工事（ウレタン舗装）
	鹿屋中央公園サッカー場兼ソフトボール場	照明改修工事（LED化）
	鹿屋中央公園テニス場	照明改修工事（LED化）
R4	鹿屋運動公園野球場	ラバーフェンス設置工事
R5	鹿屋運動公園野球場	スコアボード改修工事
R6	鹿屋中央公園サッカー場兼ソフトボール場	バックネット改修工事
R7	野里運動公園(サッカー場・テニス場)	新設工事



鹿屋運動公園陸上競技場 ウレタン舗装



鹿屋中央公園テニス場 LED化



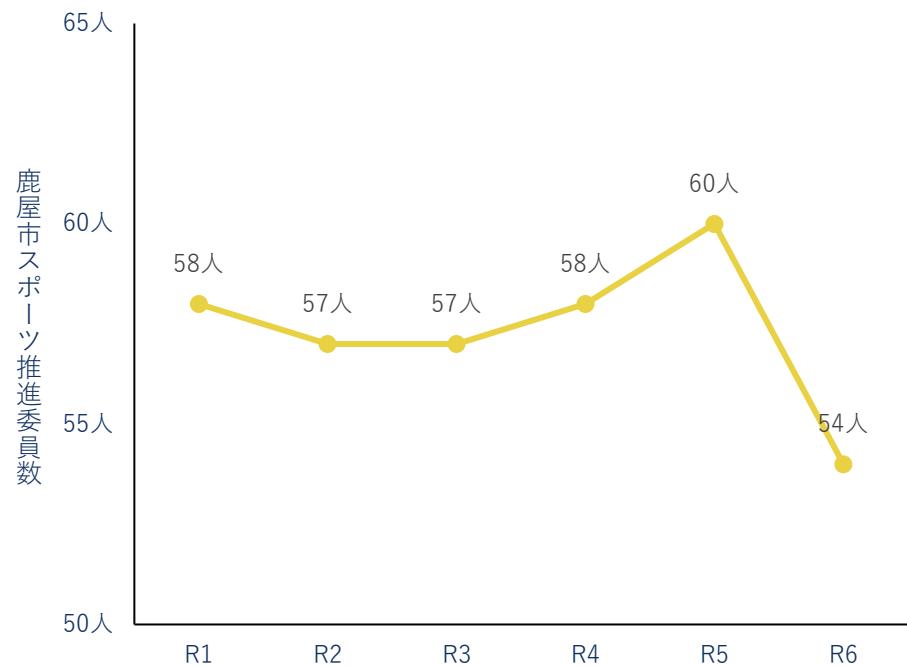
野里運動公園 新設

「ささえる」スポーツについて 3

(6) 鹿屋市スポーツ推進委員について

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法で規定されているスポーツ等に関する指導や助言を行う、鹿屋市が委嘱した非常勤職員です。市民が生涯にわたりスポーツ活動が実践できるよう、市（行政）と地域住民を結ぶ「コーディネーター」としての役割を担っています。

●スポーツ推進委員数



父親バレーボール大会の開催



かのやローズヒル駅伝大会の運営補助

4 「つながる」スポーツについて

(1) スポーツ合宿について

本市では、鹿屋体育大学や、かのやスポーツコミッショն等と連携したスポーツ合宿やトップアスリートの自主トレーニングの誘致活動を積極的に行っており、スポーツ合宿の受入れ実績は、県内で上位に位置し、スポーツによる交流人口の増加に努めています。

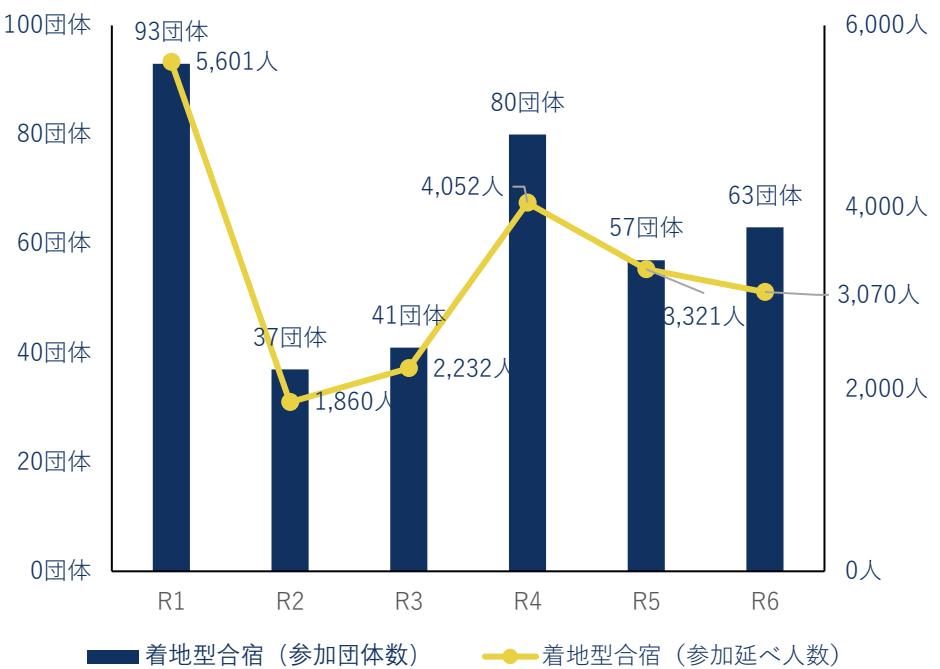
●本市のスポーツ合宿実績

(合宿団体数/延べ宿泊者数)



●かのやスポーツコミッショնの実績

(着地型合宿参加団体数/参加延べ人数)



【着地型合宿】

➢着地型合宿とは、鹿屋市内の競技団体が主催する合同合宿のことです。
かのやスポーツコミッショնでは、着地型合宿への支援として、練習施設や宿泊施設、移動手段、昼食の手配や飲料水の提供等を行っています。

「つながる」スポーツについて 4

(2) ホームタウンスポーツチームについて

地域密着型プロスポーツチームとしてプロサイクリングチーム「CIEL BLEU KANOYA」や女子プロソフトボールチーム「MORI ALL WAVE KANOYA」が活躍しており、市民との交流活動は、地域コミュニティの醸成や地域活性化にも繋がっています。



JBCF鹿屋・肝付ロードレースの開催 (CIEL)



CIEL BLEU KANOYA応援バスツアー



CIEL BLEU KANOYAストライダーエクスペリエンス

全日本クラブ女子ソフトボール選手権
4連覇 (MORI)

カノヤホームタウンスポーツフェスティバル



MORI ALL WAVE KANOYAスポーツ少年団指導

4 「つながる」スポーツについて

(3) スポーツを通じた国際交流事業

東京2020オリンピックの開催を契機に、タイ王国とスロベニア共和国は、鹿屋市のホストタウンに登録されました。タイ王国の男子・女子バレーボールチーム、スロベニア共和国の男女柔道チームが、本市でキャンプ（合宿）を行い、国際交流を実施しました。

また、令和5年～6年にかけて、本市のバレーボール少年団とタイ王国トゥンソン市のジュニアバレーボールチームとの交流事業も実施しました。



タイ王国男子バレーボールチーム



スロベニア共和国男女柔道チーム



タイ王国女子バレーボールチーム



タイ王国トゥンソン市との国際交流@鹿屋市



タイ王国トゥンソン市との国際交流@トゥンソン市

第3章

本市のスポーツの課題



1 「する」スポーツについて

「する」スポーツの課題

● 30歳代～60歳代（働き世代・子育て世代）のスポーツ実施率

本市のスポーツ実施率は、全国平均を僅かに上回っていますが、第2期計画の数値目標及び国の目標である「20歳以上の方の週1回以上のスポーツ実施率が65%」に達しておらず、全国と同傾向で、いわゆる働き世代・子育て世代である30歳代～60歳代のスポーツ実施率が低い傾向にあります。

➢ 30歳代～60歳代のスポーツ実施において阻害要因となっている「時間的制約」、「経済的制約」、「設備の制約」を考慮し、最適なアプローチが必要

● 子どもがスポーツに親しむ機会の提供

幼少期や学童期からのスポーツを実施する習慣形成は、成人になってからのスポーツ実施に関与するため、子どもたちが様々なスポーツを行う機会の提供が重要であります。しかし、本市では、スポーツ少年団数とスポーツ少年団の加入率が減少しています。

➢ スポーツ少年団の運営が円滑に進めるよう支援し、少年団の継続を促しつつ、児童がスポーツを実施できる環境を維持することが必要、また民間のスポーツクラブ等との連携した事業の実施が必要

● 障がい者スポーツ（パラスポーツ）・eスポーツの推進

出張パラスポーツ体験会の開催件数や競技用車いすの貸出実績が低く、パラスポーツを実施・体験する機会が十分に提供できていない状況にあります。

➢ パラスポーツの普及は、障がいの有無に関わらず、スポーツに親しむ機会を提供することにつながるため、パラスポーツの普及や理解促進に取り組むことが必要

➢ 障がい者へのスポーツ実施にあたって効果的と思われる「eスポーツ」についても情報収集などを行い、eスポーツの効果について検証が必要

➢ eスポーツとは、「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称です。

● 更なる競技力向上に向けた取り組み

最先端の機器を活用した体力測定事業を実施していますが、参加者が少ない状況です。

➢ 鹿屋体育大学や各競技団体との連携を強化し、効果的な競技力向上の事業を検討することが必要

「みる」スポーツについて 2

「みる」スポーツの課題

● 現地でのスポーツ観戦率

本市では、様々な団体がスポーツ大会を開催したり、鹿屋体育大学におけるカレッジスポーツデイなど、身近にスポーツ観戦ができる環境があるにも関わらず、現地でのスポーツ観戦の割合は低い傾向にあります。

➤ 直接スポーツを観戦することの魅力を十分に発信することや観戦を楽しめる他分野（食や文化活動など）からの付加価値が必要

● 大規模大会等の誘致

本市では、野球や自転車競技（ロードレース）の大規模大会を誘致していますが、現地でのスポーツ観戦の割合は低い傾向にあります。

➤ 大規模大会等の誘致にあたっては、会場や時期なども考慮して、市民の興味・関心を高めることが必要

● スポーツ大会等の情報発信

大規模大会等の開催情報やスポーツの魅力向上を行うためには、確実な市民への情報提供が必要になります。

➤ 市ホームページやSNSの活用によるデジタルプラットフォームの構築や多様な媒体への展開など、本市のご当地キャラを活用した取り組みが必要

● 「みる」スポーツの環境整備

本市は、公共交通機関での移動が難しく、現地に観戦に行けない状況があります。また、働き世代・子育て世代においても、仕事や育児でスポーツ観戦の時間が確保できない状況もあります。

➤ DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用し、本市で開催されるスポーツ大会等を「いつでも、どこでも、だれでもスポーツを見れる環境」整備に向けた取り組みが必要

3 「ささえる」スポーツについて

「ささえる」スポーツの課題

● 鹿屋市スポーツボランティア・鹿屋市スポーツ推進委員の活性化

本市のスポーツボランティア制度の登録者は年々増加していますが、実際に活動しているボランティアは一定数に限られています。

本市の鹿屋市スポーツ推進委員は、定員を満たしていない状況が続いており、減少傾向にあります。

➢ **魅力ある様々なボランティア活動の場を提供することが必要**

➢ **鹿屋市スポーツ推進委員については、活動しやすい仕組みづくりを検討するとともに、スポーツボランティアと同様、活動の充実化に向けた取り組みが必要**

● スポーツ環境整備（施設）

スポーツ関連施設や学校開放事業で使用する学校体育施設については、整備、運用、維持管理を行い、長寿命化に努めていますが、老朽化している施設がある状況です。

➢ **スポーツ施設の整備については、市民の誰もが、快適で、安全安心にスポーツを親しむことができるよう、継続的な修繕計画を策定し、長寿命化を図ることが必要**

● 指導者の育成・支援

「スポーツ少年団」の活動を存続・維持する事や「部活動地域展開」を推進していく上で、「指導者の不足」が課題です。

➢ **鹿屋体育大学や各競技団体等と連携を行い、指導者の育成を目的とした研修会や支援制度を検討することが必要**

「つながる」スポーツについて 4

「つながる」スポーツの課題

● スポーツ合宿の更なる推進

本市のスポーツ合宿については、鹿屋体育大学や市内事業者の宿泊施設や飲食店、交通事業者などで構成された「かのやスポーツコミッショն」との連携により、県内で上位の受入れ実績となっていますが、施設利用時期が重なるなど、受入れ団体の固定化が進み、新規獲得が困難な状況です。

➤ 様々な競技種目のスポーツ合宿を誘致することや、近隣自治体と連携したスポーツ合宿の誘致が必要

● ホームタウンスポーツチームとの連携

本市を拠点に活動するプロスポーツチームと市民との一体感を醸成する取り組みが必要です。

➤ ホームタウンスポーツチームとの更なる連携を図り、市民が応援・支援する一体感の醸成を図り、本市の特色あるまちづくりに努めることが必要

● スポーツを通じた国際交流

本市では、外国人の人口が増加傾向にあり、外国人を含めた、スポーツを「する」「みる」「ささえ
る」「つながる」事業の実施が必要です。

➤ 外国人でも参加しやすいスポーツイベントの開催やスポーツを習慣化する仕組み作りの検討を通して、
市内に定住する外国人のスポーツの環境を整えることが必要

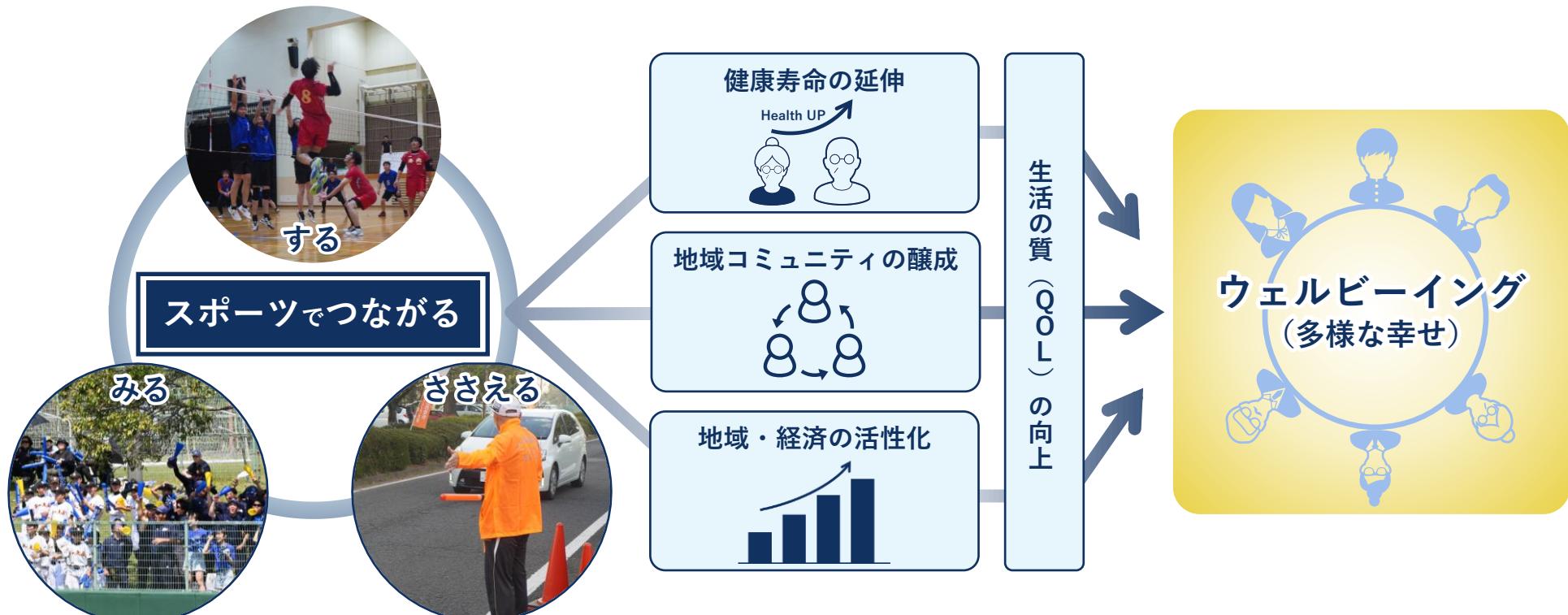
第4章

計画の基本的な考え方

スポーツを通じたウェルビーイングの実現

全ての市民が、人種、性別、年齢、障がいの有無等に関わらず、一人ひとりが「する」「みる」「ささえる」といった様々な形でスポーツに積極的に集い、スポーツで人々が「つながる」ことによって、健康寿命の延伸はもとより、スポーツ交流人口の増加や地域コミュニティの醸成、さらには関係人口の増大、地域・経済の活性化を図り、生活の質（QOL：Quality of Life）が向上し、市民が多様な幸せ（ウェルビーイング）を実現できるよう、基本理念・将来像を定めます。

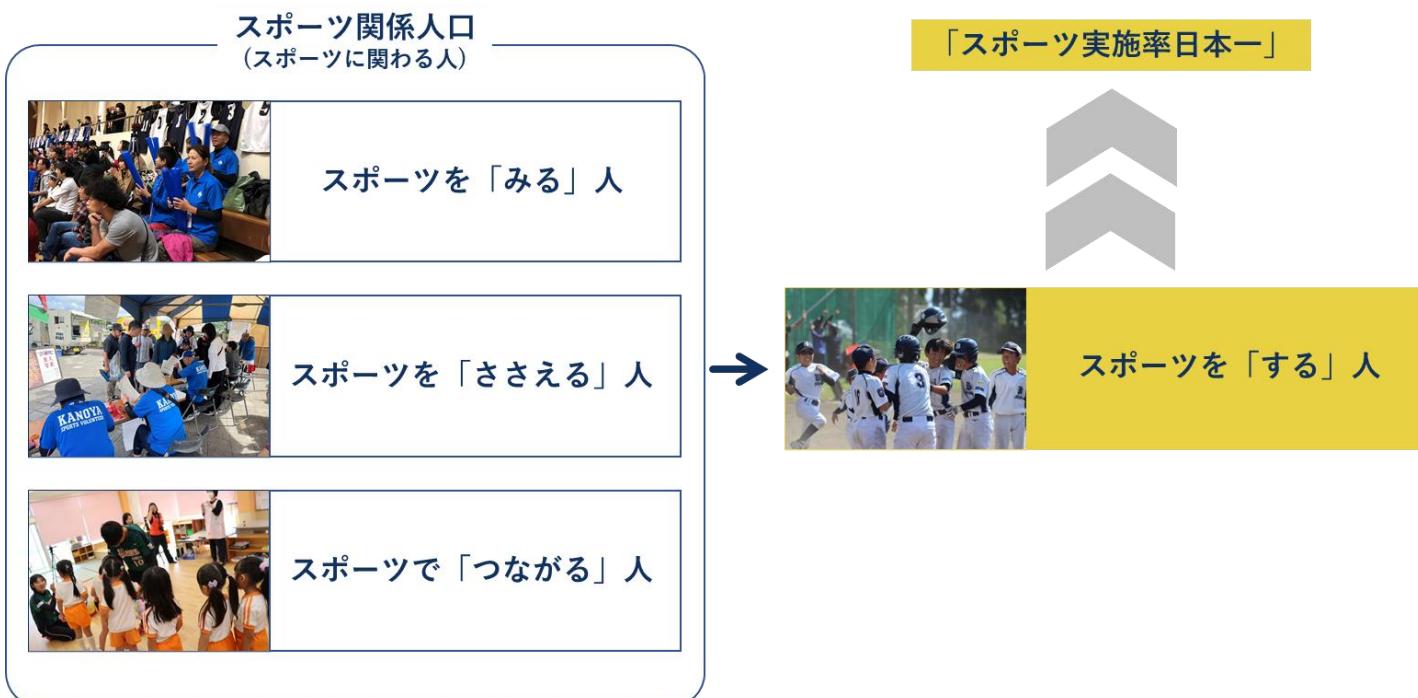
※スポーツ基本法においては、「集まる」「つながる」のキーワードが明記されていますが、本市の計画においては、「つながる」に「集まる」の要素を含めることで、スポーツ基本法との整合性を図ります。またDXなど本市の他の計画の方針を踏まえ、具体的な取組を定めております。



2 計画の基本目標

「スポーツ関係人口の増大」→「スポーツ実施率日本一」

市民一人ひとりが、それぞれのライフスタイルや目的に応じて、いつでも、どこでも、だれとでもスポーツに親しみ、スポーツを「する」人、スポーツを「みる」「ささえる」人を増やし、人種、性別、年齢、障がいの有無等にかかわらず地域住民が、様々なカタチでスポーツで「つながる」ことを目指して、本計画の基本目標を定めます。



スポーツに関わる人（スポーツ関係人口）を増やすことで、結果として、スポーツを「する」人を増やし、スポーツ実施率日本一を目指します。

計画の基本的方針 3スポーツを
「する」

- 世代別・目的別に応じたスポーツの推進
- 更なる競技力向上に向けた取り組み

スポーツを
「みる」

- スポーツ観戦機会の提供
- スポーツ観戦の魅力向上

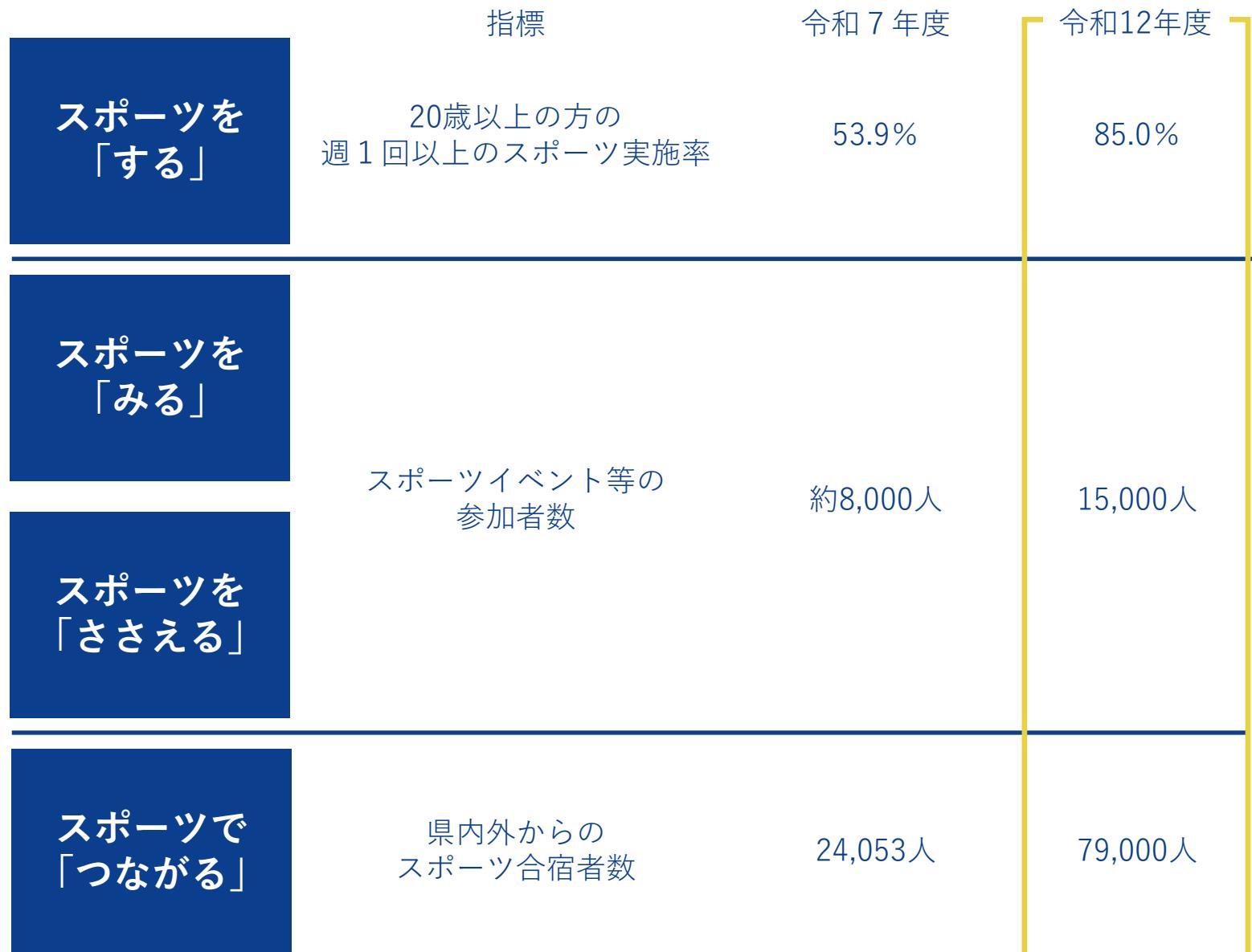
スポーツを
「ささえる」

- 鹿屋市スポーツ推進委員の活動の活性化
- スポーツ環境整備（施設）
- スポーツを「ささえる」人材育成

スポーツで
「つながる」

- スポーツ合宿の更なる推進
- ホームタウンスポーツチームとの連携
- スポーツを通じた国際交流

4 数値目標



連携・協働について 5

鹿屋体育大学と連携・協働して、スポーツの効果検証や新たなスポーツプログラムの開発等を図るとともに、総合型地域スポーツクラブや、各競技団体、ホームタウンスポーツチーム、かのやスポーツコミッショ等との連携も強化し、市民が様々なカタチで、スポーツに取り組むことができるよう努めます。

- ・市内小中学校
- ・市内高校
- ・鹿屋体育大学 など

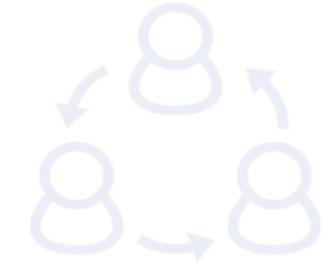
- ・総合型地域スポーツクラブ
- ・かのやスポーツコミッショ
- ・ホームタウンスポーツチーム
- など



国、県、鹿屋市など

- ・鹿屋市スポーツ協会
- ・鹿屋市スポーツ少年団
- ・鹿屋市スポーツ推進委員
- ・鹿屋市スポーツボランティア
- など

6 計画の体系図

基本理念	スポーツを通じたウェルビーイングの実現			
基本目標	「スポーツ関係人口の増大」→「スポーツ実施率日本一」			
具体的な取組	スポーツを「する」 ① 世代別・目的別に応じた スポーツの推進 ② 更なる競技力向上に 向けた取り組み	スポーツを「みる」 ① スポーツ観戦機会の提供 ② スポーツ観戦の魅力向上	スポーツを「ささえる」 ① 鹿屋市スポーツ推進委員 の活動の活性化 ② スポーツ環境整備（施設） ③ スポーツを「ささえる」 人材育成	スポーツで「つながる」 ① スポーツ合宿の更なる推進 ② ホームタウンスポーツ チームとの連携 ③ スポーツを通じた国際交流
				
	<ul style="list-style-type: none"> ・20歳以上の方の週1回以上のスポーツ実施率 85.0% ・スポーツイベント参加者数 15,000人 ・県内外からのスポーツ合宿者数 79,000人 			
	令和8年度から令和12年度【5年間】			

計画の変遷 7

		第2期計画（旧）	第3期計画（新）
基本理念	スポーツを通じた活力ある社会の実現	スポーツを通じたウェルビーイングの実現	
基本目標	<ul style="list-style-type: none"> ひとり1スポーツの推進 スポーツを通じて人や地域がつながるまち 	スポーツ関係人口の増大 →スポーツ実施率日本一	
基本方針	<p>【するスポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じたスポーツの推進 ・学校での運動習慣の確立 ・競技スポーツの推進 	<p>【スポーツを「する」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代別・目的別に応じたスポーツの推進 ・更なる競技力向上に向けた取り組み 	
	<p>【みるスポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ観戦機会の提供 ・スポーツ観戦の魅力発信 	<p>【スポーツを「みる」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ観戦機会の提供 ・スポーツ観戦の魅力向上 	
	<p>【ささえるスポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ささえる人材づくり ・スポーツ環境の整備 ・情報サービスの推進 	<p>【スポーツを「ささえる」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿屋市スポーツ推進委員の活動の活性化 ・スポーツ環境整備（施設） ・スポーツを「ささえる」人材育成 	
	<p>【つながるスポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツからつながる地域の絆づくり ・国際交流の推進 ・健康増進、健康寿命の延伸 	<p>【スポーツで「つながる」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ合宿の更なる推進 ・ホームタウンスポーツチームとの連携 ・スポーツを通じた国際交流 	

第5章

具体的な取組



世代別・目的別に応じたスポーツの推進【子ども】

現状と課題

- 本市の小学生の1週間の総運動時間、体力テストの合計得点は、全国平均を下回っている。
- スポーツ少年団数とスポーツ少年団の加入率が減少している。
- 部活動地域展開の推進が必要である。

幼児期からの運動習慣の形成

幼児期の運動習慣とその後のスポーツ習慣には強い相関があるため、幼児期からの運動習慣を形成する事業を展開します。

- ・幼児教育、保育施設と連携した幼児や親子に適したスポーツイベントの周知、実施
- ・幼児期から運動が定着できるような運動プログラムの普及、啓発

子どものスポーツ実施機会の充実

学童期の子ども達がスポーツを行う機会の提供を確保するため、様々な事業を展開します。

- ・スポーツ少年団の指導者不足を補うための指導者育成事業の検討
- ・総合型地域スポーツクラブや民間スポーツクラブとの連携の検討

部活動地域展開の推進

中学生のスポーツを行う機会を確保するため、部活動地域展開の推進に努めます。

- ・部活動地域展開の指導者不足を補うための指導者育成事業の検討

1 スポーツを「する」

世代別・目的別に応じたスポーツの推進【働き世代・子育て世代】

現状と課題

- 仕事や家事、育児で忙しい等の「時間的制約」、施設利用や用具購入にかかる費用といった「経済的制約」、身近に施設が無い等の「設備の制約」が要因となり、30歳代～60歳代のスポーツ実施率が低い。

「ながら運動」の推進

仕事や家事・育児等のスキマ時間を活用した「ながら運動」の推進に努めます。

- ・ 徒歩や自転車を使った通勤および移動の推進
- ・ ながら運動プログラムの配信

企業のスポーツ実施の気運醸成

市内企業に対し、従業員へのスポーツ実施を促進するよう働きかけを行います。

- ・ 市内事業者に対して、スポーツを推進するための国の登録認証制度への登録促進
- ・ 休憩時間等に気軽にスポーツに取り組める環境づくりの推進

多様なスポーツに触れる機会の提供

様々な視点から、スポーツに触れる機会を創出し、スポーツ実施の「はじめの一歩」を後押しします。

- ・ スポーツに他の目的（交流、観光、食など）を併用したスポーツイベントの実施
- ・ 総合型地域スポーツクラブ等と連携したスポーツ体験機会の創出
- ・ アーバンスポーツの推進に向けた取り組みの検討

世代別・目的別に応じたスポーツの推進【高齢者】

現状と課題

- 高齢者のスポーツ実施の妨げとなっている要因は、身近に施設が無いなどの「設備の制約」と一緒にスポーツを行う仲間がいないなどの「人的制約」が挙げられる。
- 体力の低下により、積極的にスポーツを実施しない傾向が見受けられる。

ウォーキングの普及

ウォーキングは特別な施設や用具が不要で始められるスポーツであることから、ウォーキングの普及に取り組みます。

- ・参加しやすいウォーキングイベントの検討・実施
- ・参加者が交流するウォーキングイベントの検討・実施
- ・ウォーキングコースの周知

仲間づくりを目的とした事業

高齢者の交流を目的とした事業の実施に努めます。

- ・地域サロンへの支援
- ・総合型地域スポーツクラブ等を活用した交流事業の検討

ニュースポーツの普及

高齢者がスポーツに取り組むきっかけとして、体への負担が少なく、ルールが簡単な「ニュースポーツ」の普及に取り組みます。

- ・ボッチャやモルック等の体験会の実施
- ・鹿屋市スポーツ推進委員等を活用したニュースポーツの普及

1 スポーツを「する」

世代別・目的別に応じたスポーツの推進【障がい者】

現状と課題

- 出張パラスポーツ体験会の開催件数や競技用車いすの貸出実績が減少傾向にある。
- パラスポーツを体験できる機会が少ない。

パラスポーツ体験の普及

障がいの有無に関わらず、だれでもパラスポーツを体験できる機会を創出します。

- ・パラスポーツ用具の貸出事業の情報発信
- ・総合型地域スポーツクラブやスポーツ推進委員を活用したパラスポーツのルール説明などができる人材の育成
- ・パラスポーツイベントの開催

パラスポーツへの挑戦支援

パラスポーツに取り組む市民への支援等を目指します。

- ・パラスポーツに挑戦する方への支援制度の検討
- ・パラスポーツ競技者が快適に活動できる環境の整備（バリアフリーの推進）

eスポーツの検証

eスポーツの活用に関する課題等の情報収集、分析等を実施し、効果の検証を行います。

- ・eスポーツの実態調査
- ・eスポーツ大会等の誘致検討

世代別・目的別に応じたスポーツの推進【外国人】

現状と課題

- 本市では、外国人の人口が増加している状況にあるので、外国人を含めた、スポーツを「する」「みる」「ささえる」「つながる」事業の実施が必要である。
- 様々な言語や文化等に対して、理解が必要である。

多様なスポーツ機会の提供(再掲)

様々な視点から、スポーツに触れる機会を創出し、スポーツ実施の「はじめの一歩」を後押しします。

- ・総合型地域スポーツクラブ等と連携したスポーツ体験機会の創出
- ・外国人を対象としたスポーツ体験会の実施

外国人のための環境整備

様々な言語や文化等に対応するため、外国人にとって快適なスポーツ環境の整備に努めます。

- ・スポーツ施設や情報発信等における多言語対応の推進
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した外国人との交流の推進

企業のスポーツ実施の気運醸成(再掲)

外国人材を雇用している企業に協力をもらい、外国人のスポーツ実施の推進に努めます。

- ・企業単位でのスポーツイベントの参加推進
- ・企業からの外国人材へのスポーツ情報の提供

1 スポーツを「する」

更なる競技力向上に向けた取り組み

現状と課題

- 本市では、鹿屋体育大学の卒業生やホームタウンスポーツチームなどが、プロスポーツや世界大会、各種大会等で、優秀な成績を収めており、本市の名声を高めている。
- 鹿屋体育大学と連携した最先端の機器を活用した体力測定事業を実施しているが、参加者が少ない状況である。

効果的な競技力向上事業

鹿屋体育大学や各競技団体との連携を図り、効果的な競技力向上事業の実施に努めます。

- ・鹿屋体育大学や各競技団体の知見を活用した効果的な競技力向上事業の検討および実施

各団体への支援事業

競技団体や総合型地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブとの連携に努めます。

- ・総合型地域スポーツクラブや民間スポーツクラブ、鹿屋市スポーツ協会と連携した競技力向上事業の検討
- ・競技力向上を目的とした指導者育成事業の実施

トップアスリートとの交流事業

本市でスポーツ合宿等を行うトップアスリート等と連携した交流事業の実施に努めます。

- ・トップアスリート等による技術指導や講演会の開催
- ・トップアスリートが出場する大会等の誘致

スポーツ観戦機会の提供

現状と課題

- 本市では様々な団体が開催するスポーツ大会や、鹿屋体育大学におけるカレッジスポーツデイなど、身近にスポーツ観戦ができる環境にあるにも関わらず、現地でスポーツ観戦する市民の割合が低い。

様々な種目のスポーツ観戦機会の提供

市民により多くのスポーツ観戦機会を提供し、「する」「ささえる」「つながる」へのきっかけづくりに取り組みます。

- ・鹿屋体育大学と連携して実施している「Blue Winds」事業の更なる推進
- ・トップアスリート等の合宿誘致
- ・競技団体が開催する大会への支援

大規模大会の誘致

大規模大会の誘致を通じて、市民のスポーツ観戦機会の増大を図ります。

- ・ホームタウンスポーツチームと連携した大規模大会誘致の検討
- ・鹿屋体育大学や各競技団体との連携した大規模大会誘致の検討
- ・大規模大会誘致に必要なスポーツ施設整備の検討

スポーツ大会等の情報発信

スポーツ大会の開催情報など、スポーツ観戦の魅力の発信に努めます。

- ・鹿屋体育大学や各競技団体が開催するスポーツ大会の調査・周知
- ・市民への効果的な情報発信方法の検討
- ・ゆるキャラ等を活用した情報発信

2 スポーツを「みる」

スポーツ観戦の魅力向上

現状と課題

- 本市では様々な団体がスポーツ大会を開催したり、鹿屋体育大学におけるカレッジスポーツデイなど、身边にスポーツ観戦ができる環境にあるにも関わらず、現地でスポーツ観戦した市民の割合が低い。
- 本市は、公共交通機関での移動が難しいことや仕事や育児でスポーツ観戦の時間が確保できない状況が考えられる。

「みる」スポーツの環境整備

快適かつ多様なスポーツ観戦の環境整備に取り組みます。

- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用したスポーツ観戦環境の整備
- ・快適にスポーツ観戦ができる施設整備

スポーツ観戦の魅力発信

スポーツ観戦の魅力を伝えるための情報発信に努めます。

- ・市民への効果的な情報発信方法の検討（再掲）
- ・本市にゆかりあるトップアスリートの紹介

スポーツホスピタリティの推進

スポーツと多様な分野を掛け合わせ、観戦者同士が交流できるような体験などの付加価値事業を検討します。

- ・食や音楽、婚活など多様な分野を掛け合わせたスポーツ観戦の検討
- ・町内会等の地域団体の参画を促進し、参加者との交流機会の提供

スポーツを「ささえる」 3

鹿屋市スポーツ推進委員の活動の活性化

現状と課題

- 鹿屋市スポーツ推進委員の人員が減少傾向にある。
- 小学校区単位で配置がされているが、校区によっては、スポーツ推進委員が不足している。

活動・活躍の場の創出

スポーツ推進委員が活動しやすい環境の整備に努めます。

- ・活動希望調査の実施
- ・様々な活動機会の創出
- ・スポーツ推進委員の資質向上に向けた研修会等の実施

活動しやすい・したくなる仕組み作り

参加しやすく、参加したくなる仕組み作りに努めます。

- ・活動に対する更なる価値の創出を検討
- ・年間活動予定の情報提供
- ・スポーツ推進委員間の交流の場の提供

確実な情報発信

スポーツ推進委員への確実な情報発信を通して、活動人数の増大に努めます。

- ・SNSやコミュニケーションアプリを活用した情報発信や連絡手段の確保
- ・SNSを活用した活動実績などの広報の実施

3 スポーツを「ささえる」

スポーツ環境整備（施設）

現状と課題

- 学校体育施設を含めスポーツ関連施設は、計画的な整備、維持管理を行っているが、老朽化している施設がある。
- 施設利用について、利用時期、時間等が集中しており、予約が困難な状況がある。

スポーツ関連施設の計画的整備

老朽化が進むスポーツ関連施設の計画的な修繕整備・維持管理に努めます。

- ・スポーツ関連施設の現状把握
- ・利用者からの意見聴取の実施
- ・計画的で長寿命化に向けた修繕の実施
- ・新たな修繕計画策定の検討

利用しやすいスポーツ施設運営

オンライン予約システムなど、市民が利用しやすい施設運営を図ります。

- ・オンライン予約システムの普及および利便性の向上
- ・利用者のニーズに対応した施設運営の検討

スポーツ合宿の推進に伴う施設整備

様々なスポーツ合宿を受け入れるための施設整備に努めます。

- ・スポーツ合宿者への施設整備に関する意見聴取の実施
- ・快適なスポーツ合宿環境づくりの検討

スポーツを「ささえる」人材育成

現状と課題

- 部活動地域展開やスポーツ少年団などの運営において、指導者不足が課題の一つとなっている。
- 本市のスポーツボランティア制度の登録者数は増加しているが、実際に活動している人材の固定化が進んでいる。

指導者の確保・育成事業の展開

持続可能なスポーツ環境を整備するため、指導者の確保に努めます。

- ・指導者等の資格取得支援の実施
- ・競技団体や総合型地域スポーツクラブ等と連携した指導者等の資質向上を目的とした研修会等の開催
- ・鹿屋体育大学と連携した指導者確保・育成に係る課題等を目的とした研究の実施

スポーツボランティア活動の活性化

活動しやすい・活動したくなる仕組み作りや活動機会の創出に努めます。

- ・活動希望調査の実施
- ・活動への更なる価値の創出を検討
- ・スポーツボランティア間の交流の場の提供
- ・大会運営に限らない活動の創出

部活動地域展開の推進（再掲）

中学生の運動を行う機会の提供を確保するため、部活動地域展開の推進に努めます。

- ・部活動地域展開の指導者不足を補うための、指導者育成事業の検討

4 スポーツで「つながる」

スポーツ合宿の更なる推進

現状と課題

- 「かのやスポーツコミッショն」との連携により、県内上位の合宿受入れ実績となっているが、施設利用時期が重なるなど、受入れ団体の固定化が進み、新規合宿の獲得が困難な状況である。

様々な競技種目のスポーツ合宿誘致

スポーツ合宿者数を増大させるために、様々なスポーツ合宿の誘致に努めます。

- ・リピーターの継続を図りつつ、新規合宿者の獲得
- ・スポーツ関連施設を利用しない競技種目のスポーツ合宿誘致
- ・鹿屋体育大学と連携したスポーツ合宿誘致活動の実施

広域的なスポーツ合宿の推進

スポーツ合宿者を増大させつつ、スポーツ合宿者の快適な合宿環境の整備に努めます。

- ・近隣自治体のスポーツ関連施設の利用等に向けた連携の実施
- ・民間スポーツ施設の利用の検討

かのやスポーツコミッションとの連携

市内事業者等で構成された「かのやスポーツコミッション」との更なる連携を図り、合宿を推進します。

- ・着地型合宿※や大会の更なる誘致
- ・スポーツ合宿者と地域の住民が交流する機会の検討
- ・かのやスポーツコミッションの情報発信

※着地型合宿についてはP27参照

スポーツで「つながる」

4

ホームタウンスポーツチームとの連携

現状と課題

- 地域密着型プロスポーツチームとして「CIEL BLEU KANOYA」や「MORI ALL WAVE KANOYA」が活躍しており、ホームタウンスポーツチームを活かしたまちづくりを推進している。
- ホームタウンスポーツチームと市民の更なる一体感の醸成を図り、本市の特色あるまちづくりを推進する必要がある。

選手と市民の交流機会等の提供

市民との交流機会等を増大することで、市民との一体感の醸成に努めます。

- ・市民との交流事業の実施
- ・SNSを活用した交流機会の検討
- ・ホームタウンスポーツチームの活動実績の周知

大規模大会等の誘致（再掲）

ホームタウンスポーツチームと連携を図り、大規模大会や合宿の誘致を図ります。

- ・ホームタウンスポーツチームと連携した大規模大会誘致の検討
- ・ホームタウンスポーツチームと連携したスポーツ合宿誘致の検討

チームと連携したまちづくり

ホームタウンスポーツチームと連携し、本市の特色あるまちづくりに努めます。

- ・スポーツに関わらないホームタウンスポーツチームへの活動の場の提供
- ・ホームタウンスポーツチームへの様々なサポート方法の検討

4 スポーツで「つながる」

スポーツを通じた国際交流

現状と課題

- 東京2020オリンピックを契機に外国のナショナルチームの事前合宿の受入れを行い、様々な国際交流を実施した。
- タイ王国とは、ジュニアバレーボールの国際交流を実施した。

国際大会等の事前合宿の受入れ

国内で開催される国際大会に合わせて、ナショナルチームの合宿受入れに努めます。

- ・国際大会に参加するナショナルチームへの情報提供の実施
- ・鹿屋体育大学と連携した合宿環境の検討

国際交流におけるスポーツ活動の推進

本市で実施している国際交流等に、スポーツ活動のプログラムを取り入れることに努めます。

- ・総合型地域スポーツクラブやホームタウンスポーツチーム等と連携したスポーツ体験の実施
- ・ニュースポーツを活用した交流大会の開催

外国人のための環境整備（再掲）

言語や文化等の妨げを解消するため、外国人にとって快適な環境等の整備に努めます。

- ・スポーツ施設や情報発信等における多言語対応の推進
- ・DXを活用した外国人とのコミュニケーション方法の検討
- ・スポーツ合宿・大会等で来市した外国人のニーズに応じた環境整備の検討

